

経 験

# 一地方病院の外科医が全国規模研究会の当番世話人を するということ 第21回日本 LPEC 研究会の場合

新潟県厚生連 糸魚川総合病院、外科

田澤 賢一

背景：一地方病院の外科医が全国規模の研究会の当番世話人を経験したので報告する。

症例内容：2021年3月に第21回日本 LPEC 研究会の当番世話人を拝命、研究会開催要項作成、演題募集、銀行口座開設、プログラム作成、広告企業集めなど様々な業務を少人数で行った。新型コロナウイルス第六波により、研究会を一旦延期、2022年6月5日に横浜で研究会を現地開催した。マイクのアルコール消毒、動画の運用トラブルなど、予期せぬ事態もあったが、1人の感染者もなく、研究会を現地開催できた。

結論：新型コロナウイルス蔓延下において、一地方病院の外科医が研究会を現地開催することは容易ではない。しかし、予測できる事態を想定することで、開催は十分可能である。

キーワード：LPEC、研究会、新型コロナウイルス

## I. 当番世話人の任を拝命する

2021年初頭、まだまだ、新型コロナウイルスの蔓延下の中、一地方病院の外科医に、全国規模の研究会の当番世話人の依頼が来ました。研究会名は第21回日本 LPEC 研究会。LPEC とは、小児の鼠径部ヘルニアに対し開発された術式で、腹腔鏡下に鼠径部ヘルニアを確認、腹膜外に体表面からヘルニア嚢を結紮する手術のことです (laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure、以下 LPEC)。近年、成人への適応拡大が進み、積極的に成人外科医への啓蒙活動を行っています。自分自身は、新型コロナウイルス蔓延直前の2020年1月に、沖縄で開催された第19回研究会に世話人の一人として、現地参加させていた。以来、深くかかわりを持ち始めたとはいえ、同手術の経験も未熟(5例程度)であり、まだまだそのような大役は早い気がしてなりません。しかし、2021年1月の完全オンラインで開催された第20回大会(当番世話人福井赤十字病院外科、藤井秀則先生)の後、同年3月の世話人会のメール会議の承認を経て、第21回研究会当番世話人となりました。

## II. 会の要綱作成、演題募集、銀行口座開設、プログラム作成

時間が限られる中、同研究会代表世話人、ハートライフ病院ヘルニアセンター長、髙原裕夫先生とネット会議の末、様々な学会、研究会の合間を縫う

ように、2022年02月23日に会期を設定、会場を賛助会員のエム・シーメディカル株式会社の会議室を格安で借用し、現地開催を目指すこととなりました。

次に、本会の要望演題の内容を決定するにあたり、自分自身の会への参加の動機でもあった、同術式の成人への応用と同手術の術後の長期的な予後に変異興味があったため、要望演題として、① LPEC の成人例における適応拡大、②成人・小児における LPEC の短期・長期予後といたしました。

会の要綱を作成、2021年8月末日より3か月間、演題募集の期間を設定した。開催要項を封書で郵送、研究会のホームページ上にも情報が開示、メールによる演題募集となりました。演題募集用の新規のメールアドレスも開設しました。新型コロナウイルス蔓延下であり、なかなか演題が出しにくい状況下で、諸先生方より、最終的に計19演題の応募をいただきました。深く感謝申し上げます。次に、要望演題、一般演題を、4つのセッションに区分け、各セッションに成人外科と小児外科の先生にお一人ずつ、二名の座長をそれぞれお願いいたしました。お忙しい中、座長をお受けていただき、深く感謝申し上げます。特別講演では髙原先生に“Advanced LPEC 法は鼠径ヘルニア術後慢性疼痛 (CPIP) の危険術式か?”と題して、ご講演いただくこととなりました。深く感謝申し上げます。

会の要綱決定に続き、第21回研究会の専用の銀行口座を開設しました。しかし、近年、特殊詐欺被害の件数も多く、たとえ医師であっても、研究会の専用の口座開設には、様々なハードルがあり、会の趣旨、運用金額、代表者の身元調査など、複数回の事情聴取の上、1か月以上かけて、やっと口座開設に至りました。

プログラム・抄録集の作製も重要なお仕事の一つで、一部50ページの冊子を200部作成するにあたり、広告料の設定、広告の募集を、演題募集と同時期に行い、当院の関係各位の企業様にお願いした次第でした。多くの企業様に広告をおだしいたいただき、プログラム作成可能となり、この場をお借りいたしました。深く感謝申し上げます。プログラムの表紙は、カメラが趣味の義父の撮影した、糸魚川の地の“高浪の池と明星山”の写真としました(図1)。代表世話人の髙原先生より、なかなか好評であったとのことのお言葉をいただきました。ありがたいことでした。

### III. オミクロン株、第6波により開催延期

いよいよ2022年に入り、会の期日も迫った矢先、新型コロナウイルス第6波として、オミクロン株の感染拡大が始まり、直前の同年2月上旬に会の延期を決定しました。オンラインでの開催も検討されましたが、“現地開催の討論に勝るものはない”という苦渋の判断でした。この時期、他の多くの研究会が中止、延期に陥り、本当につらい時期でした。

再度、会期の設定を同年6月5日(日)とし、直前にパシフィコ横浜ノースで開催される、第20回日本ヘルニア研究会学術総会(会期:2022/06/03-04)の翌日に開催日を再設定しました。各方面に延期の通達を行い、演題取り下げ、演者、座長の差し替えなど、最小限となり、本当に感謝しきりでした。しかし、当初予定した会場が新型コロナウイルスの蔓延にともない直前に使用不可となり、急遽、横浜駅近隣のTPK ガーデンシティ横浜への変更となりました。この部分で大幅に試算以上に予算がかかったのは大きな痛手でした。

### IV. 直前準備と第20回日本ヘルニア学会学術総会の参加

いよいよ、自分自身初の研究会当番世話人の大役が近づき、緊張しきり。当日の会場内掲示、参加証、兼名札、奉加帳、お釣りの準備、金庫の確保、文房具など、様々な準備が必要でした。プログラムの完成後、世話人、演者、指導医、広告掲載企業、協賛企業、当院関係各位の皆様にご挨拶を郵送いたしました。しかし、直前の前述した学会学術集会参加で上級演題1題、一般演題1題、県支部推薦演題2題と計4演題発表し、目まぐるしい予定でした。若手の不参加による代替え発表を含めて、計5演題、うち3演題を一度に連続して発表するという、自分の学術活動の中でも、例のない珍事態となりました。なんとか、役目を終え、閉会式に臨むと、不意に県支部演題の優秀賞をいただき、壇上で表彰されるといふご褒美をいただきました。ありがとうございました。しかし、同会期中も同会の終了後も、本研究会の当番世話人のため、新型コロナウイルス感染のリスクを絶ち、ヘルニア仲間との交流をすべて絶った状態での同学会参加は本当につらいものでした。

### V. 研究会当日

研究会は午前9時開始でしたので、午前8時に集合、エム・シーメディカル株式会社さま、株式会社八光さまより計4名のスタッフをご動員いただき、受付業務、PCの設定とスライド受付を行い、予定開始時間に、滞りなく開催できました。しかし、近年、動画の設定バージョンも様々なものがあり、用意したPCでは起動しないものもあり、大変焦りました。なんとか、演者の先生には皆様、御発表いただきました。また、新型コロナウイルス蔓延下の現地開催での研究会では、マイクの使用後のアルコール消毒(アルコール布で拭く)という従来にない業務もあり、そこに人員が必要となり、大変困惑した次第でした。加えて、会中盤での昼食の搬入、お茶出しなど、会の進行の裏側の業務も多く、少ない人員での会の切り盛りは、本当に裏方の皆様のご苦勞を感じた瞬間でした。人数分のお手拭きがないなど、本当にこまごまとした想定外の問題が次々に起こるものでした。

要望演題、一般演題終了後、変則的に世話人会を

開催、同会の別会場が確保できなかったため、昼食時間に研究会と同じ会場で、参加者の先生も含め、世話人会を開催、第20回研究会の収支決算書をご承認いただきました。特別講演終了後、閉会となり、若干の遅れはあるものの、ほぼ予定通りに終了できました。会場の速やかな撤収を行い、帰路についたときは、ほっとしました。また、当日、研究会開催において、新型コロナウイルス感染者を一名も出さずに、研究会が開催できました。当日は、急な開催日、会場の変更の中、約40名の先生方にお集まり、活発な御発表、御討議、誠にありがとうございます。ここにかさねて感謝申し上げます。

### VI. 研究会終了後

病院へ戻り次第、各企業へのお支払い(振り込み)、広告企業様への領収書の発送、収支の確認後、会計報告用の資料作成、第21回研究会の運営経験のマニュアル化を行い、残金分の送金、研究会本部との連絡を行いました。遅まきながら、同年9月に、世話人、演者、座長の先生へのお礼のメールをもって、同会の終了としました。最終的に、第22回研究会で同時開催されます世話人会で、収支決算の承認まで業務は継続しますが、重要業務は2022年9月をもって、いったん終了となりました。

### VII. おわりに

一地方病院の外科医が全国規模の研究会を行うという貴重な経験をさせていただきました。少ない人員、設備の中、いろいろ工夫しながら、なんとか同研究会を終えることができました。演者、座長、世話人、参加者、協賛企業、賛助会員の皆様、誠にありがとうございました。また、新潟県厚生連糸魚川総合病院のスタッフの方々にも様々な協力をいただきました。誠にありがとうございました。今後、今回の経験を次に活かしますよう、雑多な内容ではございましたが、執筆した次第です。同様なご経験をお控えの方々の一助になりましたら、幸いです。

## 英文抄録

### Experience

A surgeon at one regional hospital became a person in charge of the 21st Japanese conference of the LPEC study group

Department of Surgery, Itoigawa General Hospital  
Kenichi Tazawa

Background : A surgeon from one regional hospital reports on his experience as a person in charge of a national study group.

Case description : In March 2021, I was appointed as the person in charge of the 21st Japanese conference of the LPEC Study Group. Small group of people carried out various tasks such as preparing the guidelines for the study group, calling for abstracts, opening a bank account, preparing the programmes and collecting advertising companies. Due to the sixth wave of the new coronavirus, the conference was

一地方病院の外科医が全国規模研究会の当番世話人をするということ 第21回日本 LPEC 研究会の場合

temporarily postponed and was held locally in Yokohama on June 5th 2022. Despite some unforeseen circumstances, such as alcohol disinfection of microphones and operational problems with the video, the conference was able to hold the study group without a single infected person.

Conclusion : It is not easy for a surgeon from a regional

hospital to organise a study conference locally during a novel coronavirus epidemic. However, it is feasible to hold the meeting by anticipating foreseeable circumstances.

Key words : LPEC, Study group, COVID-19

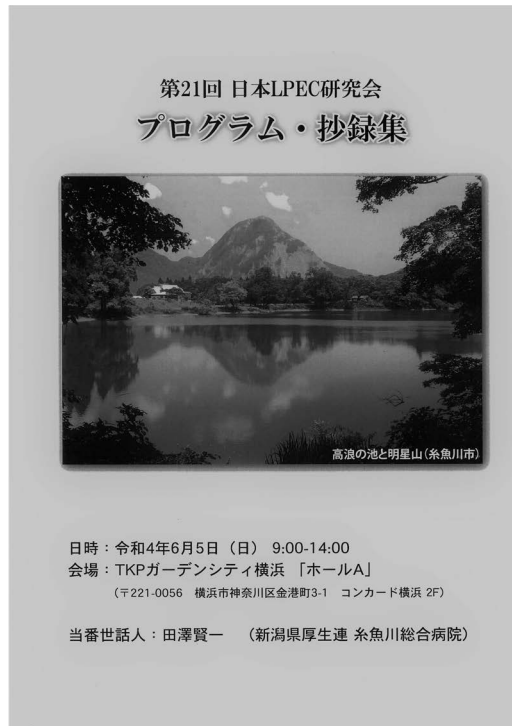


図1. 第21回日本 LPEC 研究会プログラム・抄録集 (表表紙)